

3. 小学生の読書体験

1. 一番感動したり、興味を持ったりした本

(1) それはどんな本か（本の種類と具体例）

→ 物語・童話が圧倒的、特に男子は歴史ものを好んで読む

15 いままで読んだ本の中で、一番感動したり、きょうみを持ったりした本についておたずねします。

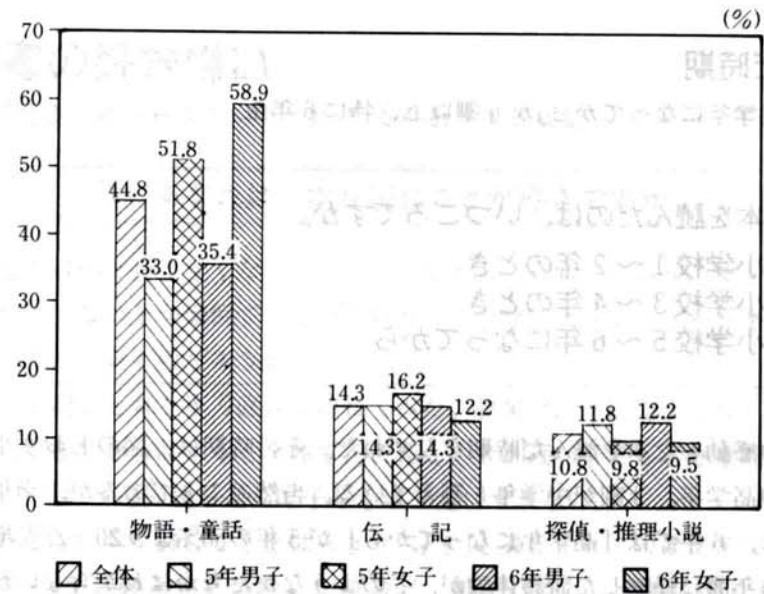
- (1) その本の名前をひとつだけ書いてください。
- (2) その本の種類は、次のなかのどれですか。

子どもの心の発達に一番影響を与えているのは、どんな本であろうか。調査では上記のような表現で、本のジャンルと具体的書名をたずねてみた。

まず、ジャンル別にみたベスト3は、右上の図に示したように、①物語・童話(44.8%)、②伝記(14.3%)、③探偵小説や推理小説(10.8%)となっており、約半数の子どもが今まで一番感動した本は物語や童話である、と答えている。属性別にみると性差が現れており、女子に物語・童話を愛読する傾向が強い。その分若干ではあるが探偵小説の割合が減っている。

ジャンル別に答えてもらうと同時に、具体的にその書名をオープンアンサーであげてもらい、各校からランダムサンプリングで男女各30名を抽出し、集計した。学年による回答の差はほとんど見られなかったため、両学年の回答を区別せずに大きくジャンル別に分け、各小学校内で複数回答があったものを中心にまとめた結果が右下の表である。

特に、男子が好んで読む歴史ものを女子は読んでいない、あるいは読んで興味や感動をあまり覚えていないらしいことが、特徴として挙げられる。また、同じジャンル分類の中でも、回答には男女の性差が出ている。



1 = 物語・童話には、含まれるものが多数あるため、便宜上A～Cに分類してある。

男	1-A 名作	十五少年漂流記、次郎物語、兎の眼、ああ無情、フランダースの犬など
	1-B 歴史もの	三国史、西遊記、日本の歴史シリーズなど
	1-C その他物語	一杯のかけそば、がんばれ盲導犬サーブなど
子	2 伝記	織田信長、伊達政宗、武田信玄、エジソン、ニュートンなど
	3 探偵・推理	シャーロック・ホームズのシリーズ、怪盗ルパンのシリーズ、江戸川乱歩のシリーズ、〇〇殺人事件など
女	4 娯楽	ズッコケシリーズ、赤川次郎シリーズ、小説ドラゴンクエストIIなど
	1-A 名作	メアリー・ポピンズのシリーズ、ああ無情、赤毛のアン、不思議な国のアリス、ネバーエンディングストーリーなど
	1-B その他物語	ハチ公物語、さと子の日記、星になったチロ、魔女の宅急便、一杯のかけそば
	2 伝記	ヘレン・ケラー、アンネ・フランク、ナイチンゲール
子	3 探偵・推理	エラリー・クイーンのシリーズ、〇〇殺人事件、ルパンのシリーズ
	4 娯楽	赤川次郎シリーズ、おちゃめなふたごのシリーズ、ミス・ピアンカシリーズ

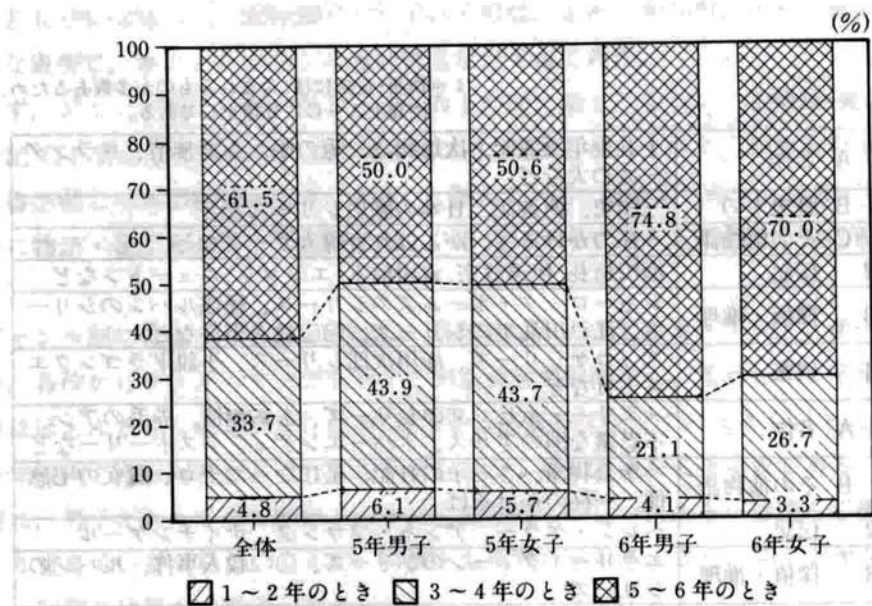
(2) 読んだ時期

「高学年になってから」が6割以上、特に6年生

(3) その本を読んだのは、いつごろですか。

1. 小学校1～2年のとき
2. 小学校3～4年のとき
3. 小学校5～6年になってから

次に、(1)の感動した本を読んだ時期をたずねた。その時期は、図のとおり平均すると6割が小学生の高学年、3割が中学年と答えている。当然のことであるが、学年別に数値の開きが見られ、6年では「高学年になってから」が5年の50%より20～25%増える。5年から6年の1年間に経験した読書体験が、どのようなかたちはわからないが、日々成長している子どもの心に大きな影響を与えていることが推測される。



(図中の数値は、無回答分を除外して算出した%である)

2. 読書の好き嫌い

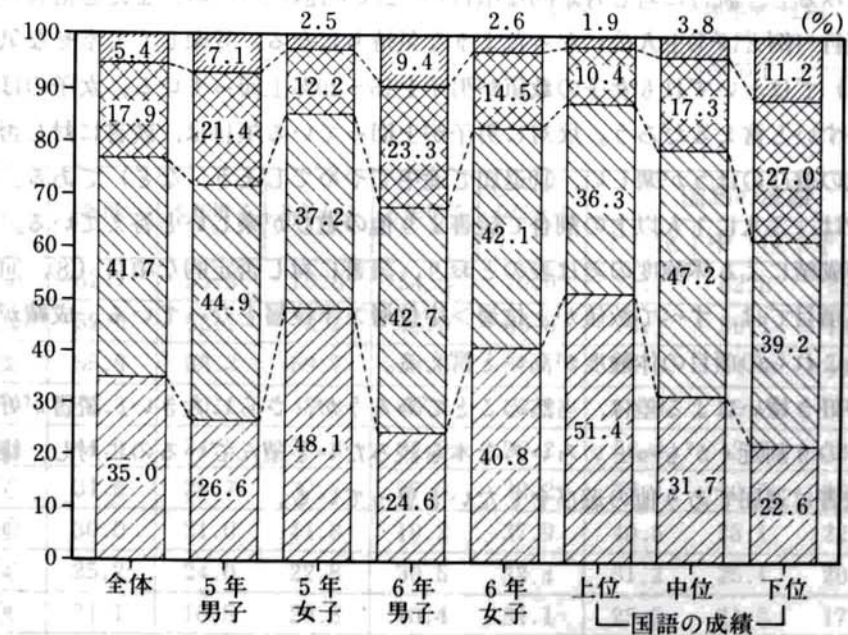
「好き」「どちらかという好き」を合計すると8割

21 あなたは、本を読むことが好きですか。

「今の子どもは本を読まなくなった」と随分前から言われているが、本を読むことに対し、例えばつまらないとか面倒でイヤだというようなマイナスのイメージを持っている子どもは、どのくらいいるのだろうか。

調査では、上記のとおり単刀直入に尋ねてみた。結果は、下図のように、「好き」「どちらかという好き」を合計すると全体で76.7%と、8割近い子どもが好意的な回答をしていた。「嫌い」という選択肢を選んだ子どもは5%にすぎない。

属性別にみると、本を読むことをはっきり「好き」と答えているのは女子に多い。「好き」「どちらかという好き」を合計した割合は、男子は約70%であるのに対し、女子は83～85%と高率になっている。国語の成績別にみると、成績上位者には読書を好きな者が多く、反対に下位者には読書を好きな者が少ない、という傾向が明らかである。



(図中の数値は、無回答分を除外して算出した%である)

3. 読書体験

↳ 6割の子どもがもっといろいろな本を読みたい、と読書欲の高まりを覚えている。

16 本を読んで、あなたは次のように感じたことがありますか。いくつでも○をつけてください。

子どもは、本を読んでどのような気持ちになるのだろうか。またどんな喜びや好奇心を持つのだろうか。

そこで、読書をしている時、あるいは読書の後で子どもがどのような気持ちになるかを想定して12項目にまとめ、子ども自身がそう感じた経験があれば、いくつでも限定せずに○をつけてもらった。

全体的にみると、体験度が高い順に⑤時間があっという間にすぎる(62.7%)、⑫もっといろいろな本を読みたい(59.6%)、②知らないものや世界のことを知った(55.9%)、となっている。まとめると、読書をすることによって未知だった分野の知識を得、もっと読みたいと読書欲が高まった子どもが多い。

性別にみると、読書に対し肯定的な項目(例えば上述の⑤や⑫)、また感情について述べている項目(例えば①主人公になったような気持ちになる、⑥楽しくて幸せな気持ちになる、など)では、いずれも女子の数値が男子を15~20%上回っている。女子のほうが感情移入しやすいと言えるだろう。反対に男子が上回っている項目は、読書に対し否定的な項目(⑩他の遊びのほうが楽しい、⑪退屈で途中でやめてしまう、など)である。特に5年生の男子は、3人に1人以上の割合で読書より他の遊びが楽しいと答えている。

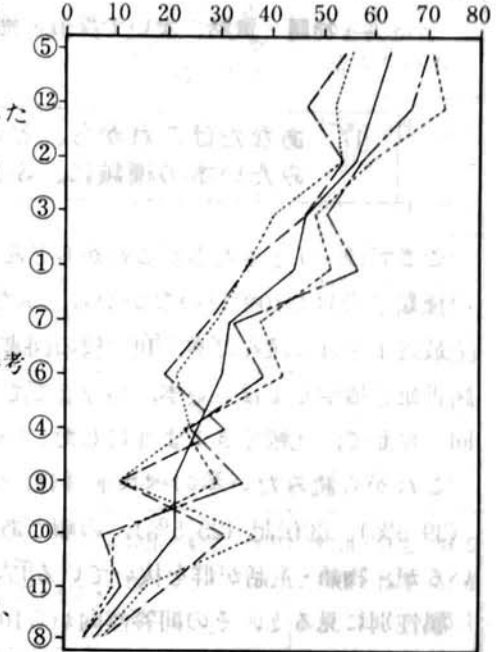
国語の成績による体験度の差は表のとおり、読書に対し否定的な項目(⑧、⑩、⑪)を除いた9項目では、すべて数値が上位層>中位層>下位層となっている。成績がよい子どもほど、これらの項目の体験度が高いと言える。

読書の好き嫌いによる差は、当然のことであろうが、さらに大きい。読書が好きなお子どは、その9割近くがもっといろいろな本を読みたいと望んでいるのに対し、嫌いな子どもは、読書は退屈であり他の遊びをしたいと思っている。

体験度の高い順に

- ⑤本を読んでいると、時間があっという間にすぎる
- ⑫もっといろいろな本を読みたい
- ②自分がぜんぜん知らないものや世界のことを知った
- ③いろいろな人の生き方や考え方を知った
- ①自分が本の主人公になったような気持ちになる
- ⑦もっとむずかしい本が読めるようになりたい
- ⑥楽しくて、しあわせな気持ちになる
- ④学校で習ったことに関係していろいろ調べられ参考になった
- ⑨悲しい気持ちになる
- ⑩ファミコンやほかの遊びのほうが楽しい
- ⑪たいくつで、途中でやめてしまう
- ⑧じゅくに行ったり教科の勉強をしたりするほうが、大切だと思う

本の読書体験度 (%)



全体 学年別 性別
 5年男子 5年女子
 6年男子 6年女子

	全体	5年男子	5年女子	6年男子	6年女子	国語の成績 (%)		
						上位	中位	下位
⑤	62.7	55.6	70.8	54.5	70.0	71.7	62.8	55.1
⑫	59.6	52.1	73.1	46.5	66.8	72.1	59.1	49.1
②	55.9	53.3	59.7	53.3	57.1	66.0	54.4	49.5
③	46.3	40.1	48.3	46.4	50.2	59.9	43.7	37.6
①	44.0	34.3	50.8	34.5	56.2	56.4	43.1	33.9
⑦	31.5	28.7	37.5	27.5	32.2	38.4	30.6	26.6
⑥	30.0	21.0	41.8	19.2	37.9	40.5	28.1	22.6
④	25.2	24.0	22.8	30.5	33.4	31.2	25.1	20.1
⑨	21.1	10.5	29.3	10.4	34.1	25.5	21.2	17.4
⑩	21.0	36.7	7.3	31.0	7.4	14.5	20.0	29.3
⑪	13.8	15.8	9.1	19.5	10.9	8.1	12.9	21.6
⑧	5.3	6.8	3.5	7.1	3.8	6.1	4.2	6.1

4. これから読みたい本

→ 物語・童話、次いで探偵・推理小説

17 あなたはこれから、どんな本を読んできたいですか。読みたい本の種類に、ふたつだけ○をつけてください。

ここでは、子どもたちがこれからどんな本を読んできたいかを尋ねた。具体的には本の種類で分けた10項目のなかから、ふたつ○をつけてもらう形にした。この10項目は、7最近1ヶ月に読んだ本、10学校の図書館でよく借りたり読んだりしている本、14学校の図書館に増やしてほしい本、15今までで一番感動したり興味を持ったりした本、の種類と同一にして、比較できるようにした。

これから読みたい本のベスト3は、①物語・童話(47.2%)、②探偵小説や推理小説(39.5%)、③伝記(25.5%)、の順であった。15の今までで一番感動した本と似通っているが、物語・童話が群を抜いている15の結果とは異なり、探偵・推理小説の人気も高い。属性別に見ると、その回答傾向から10種類の本が3グループに分けられる。

A群=物語・童話/伝記/探偵・推理小説で、このグループは国語の成績上位層・本を読むことが好きな層の数値が、下位層・本を読むことが嫌いな層の数値を上回っている。B群=つり、スポーツなど趣味の本/ギャグやナンセンスなユーモアの本で、このグループは各層の間にA群のような差がなく、数値がだいたい似通っている。C群=学習マンガで、A群とは逆に、下位層・本を読むことが嫌いな層の数値が最も高い。

次に、これから読みたい本と最近1ヶ月に読んだ本など他調査項目との関連を見たのが35頁の表である。

男子の場合、よく読んでいるのは学習マンガが圧倒的だが、これから読みたい本となると、過去に感動を与えてくれた物語・童話が1～2位に上がって来ており、読書で得た感動が本を読む意欲につながっていることが推測される。女子のこれから読みたい本は、最近1ヶ月に読んだ本・図書館でよく借りる(読む)本・図書館に増やしてほしい本の順位が、6年生ではまったく同じである。5年生でも最近1ヶ月に読んだ本以外は同じ傾向が見られる。男子に比べ、過去・現在の読書体験がこれから読みたい本のジャンルを、より大きく方向づける要因となっている。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9
2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9
3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9
4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9
5.0	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9
6.0	6.1	6.2	6.3	6.4	6.5	6.6	6.7	6.8	6.9
7.0	7.1	7.2	7.3	7.4	7.5	7.6	7.7	7.8	7.9
8.0	8.1	8.2	8.3	8.4	8.5	8.6	8.7	8.8	8.9
9.0	9.1	9.2	9.3	9.4	9.5	9.6	9.7	9.8	9.9

これから読みたい本と他調査項目との関連

(%)

	最近1ヶ月に 読んだ本	図書館でよく 借りる(読む) 本	図書館に増や してほしい本	今まで一番 感動したり興 味を持った本	これから 読みたい本
5年 男子	1.学習マンガ 62.2 2.物語・童話 54.8 3.図鑑・事典 47.3	1.学習マンガ 23.2 2.趣味の本 14.4 3.ギャグやユーモア 18.4 13.6	1.学習マンガ 23.7 2.ギャグやユーモア 18.4 3.趣味の本 13.9	1.物語・童話 33.0 2.伝記 14.3 3.探偵・推理 11.8	1.物語・童話 32.7 2.学習マンガ 30.8 3.探偵・推理 29.2
6年 男子	1.学習マンガ 54.6 2.物語・童話 48.4 3.ギャグやユーモア 44.1	1.学習マンガ 18.4 2.ギャグやユーモア 12.3 3.社会科学習 11.2	1.学習マンガ 20.5 2.ギャグやユーモア 19.5 3.探偵・推理 14.7	1.物語・童話 35.4 2.伝記 14.3 3.探偵・推理 12.2	1.探偵・推理 33.3 2.物語・童話 30.7 3.ギャグやユーモア 23.9
5年 女子	1.物語・童話 77.8 2.学習マンガ 50.2 3.その他 48.2	1.物語・童話 35.9 2.探偵・推理 15.8 3.その他 14.6	1.物語・童話 35.1 2.探偵・推理 19.0 3.学習マンガ 12.0	1.物語・童話 51.8 2.伝記 16.2 3.探偵・推理 9.8	1.物語・童話 60.0 2.探偵・推理 43.4 3.伝記 28.7
6年 女子	1.物語・童話 73.0 2.探偵・推理 43.2 3.学習マンガ 41.1	1.物語・童話 31.3 2.探偵・推理 13.3 3.学習マンガ 8.0	1.物語・童話 32.1 2.探偵・推理 26.3 3.ギャグやユーモア 14.1	1.物語・童話 58.9 2.伝記 12.2 3.その他 10.5	1.物語・童話 64.8 2.探偵・推理 51.8 3.伝記 25.1